

島根大学

生物資源

科学部

生命科学科

農林生産学科

環境共生科学科

2025
学部案内



“いのち”あふれる地球を育む

SHIMANE UNIVERSITY
Faculty of Life and Environmental Sciences



島根大学 生物資源科学部長
上野 誠
UENO Makoto

豊かな自然に接し、 生き物の素晴らしさを 共に学ぼう

島根大学生物資源科学部は、松江市の中心に位置し、湖、山、海などのフィールドが身近に存在する自然豊かな環境です。

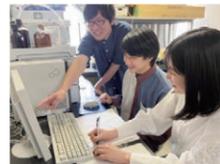
生物資源科学部では、「生命科学」、「農林生産」、「食料」、「農業経営・経済」、「生態環境」、「生物資源の利活用」、「環境保全・管理」をキーワードとして、人間・社会・自然に関する幅広い教養や理学や農学に関わる基礎的な知識を身に付け、地域や国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、研究・教育を行ってきました。

現在、本学部は「生命科学科」、「農林生産学科」、「環境共生科学科」の3学科と附属生物資源教育研究センター（演習林、農場、臨海実験所）で構成されており、専門知識と技能を講義だけでなく、室内実験、フィールド実習、グループ学習などで幅広く身に付けることができます。また、より高度な研究・教育を希望する学生には大学院進学への道も用意されています。

生物資源科学部では、島根の豊かな自然とフィールドを活かした研究・教育を通じて、地域や世界の発展と持続可能な社会構築を目指す、みなさまをお待ちしております。

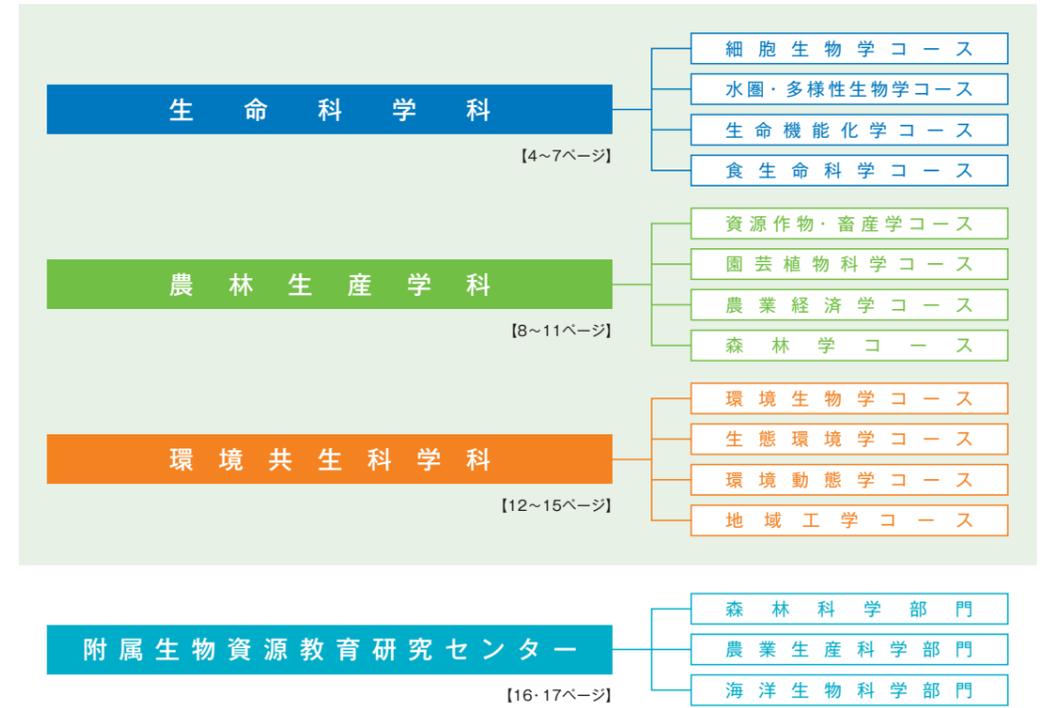
沿革

- 1947年●島根県立農林専門学校設置
- 1949年●新制島根大学設置
- 1965年●島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置
- 1971年●大学院農学研究科を設置
- 1995年●農学部と理学部を改組し、生物資源科学部を設置
- 2000年●大学院生物資源科学研究科を設置
- 2004年●国立大学法人島根大学となる
- 2008年●生物資源科学研究科5専攻体制から3専攻体制に改組
- 2012年●生物資源科学部を5学科体制から4学科体制に改組
- 2018年●生物資源科学部を4学科体制から3学科体制に改組
生物資源科学研究科と総合理工学研究科を改組し、自然科学研究科(博士前期課程)を設置
- 2020年●自然科学研究科(博士後期課程)を設置



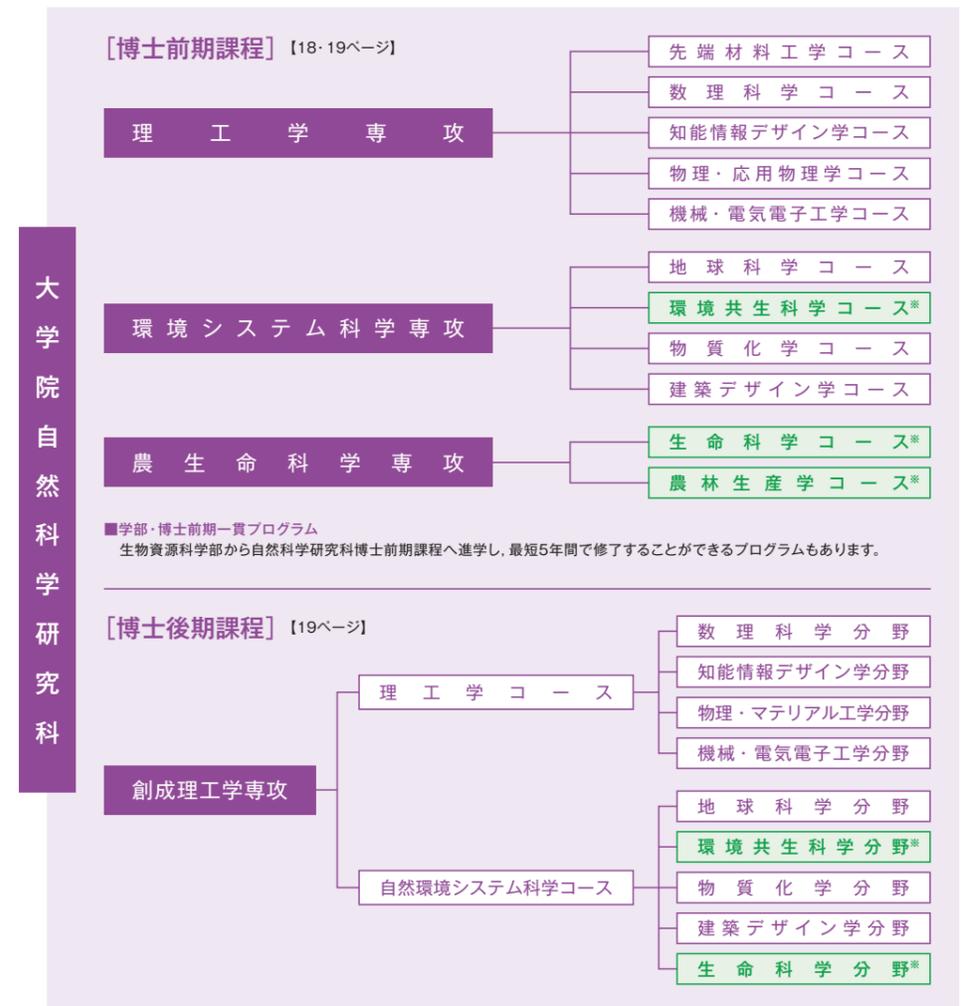
生物資源科学部の構成

3つの学科と附属センターで構成されています



大学院の構成

専門性を磨くために
大学院への進学も可能です

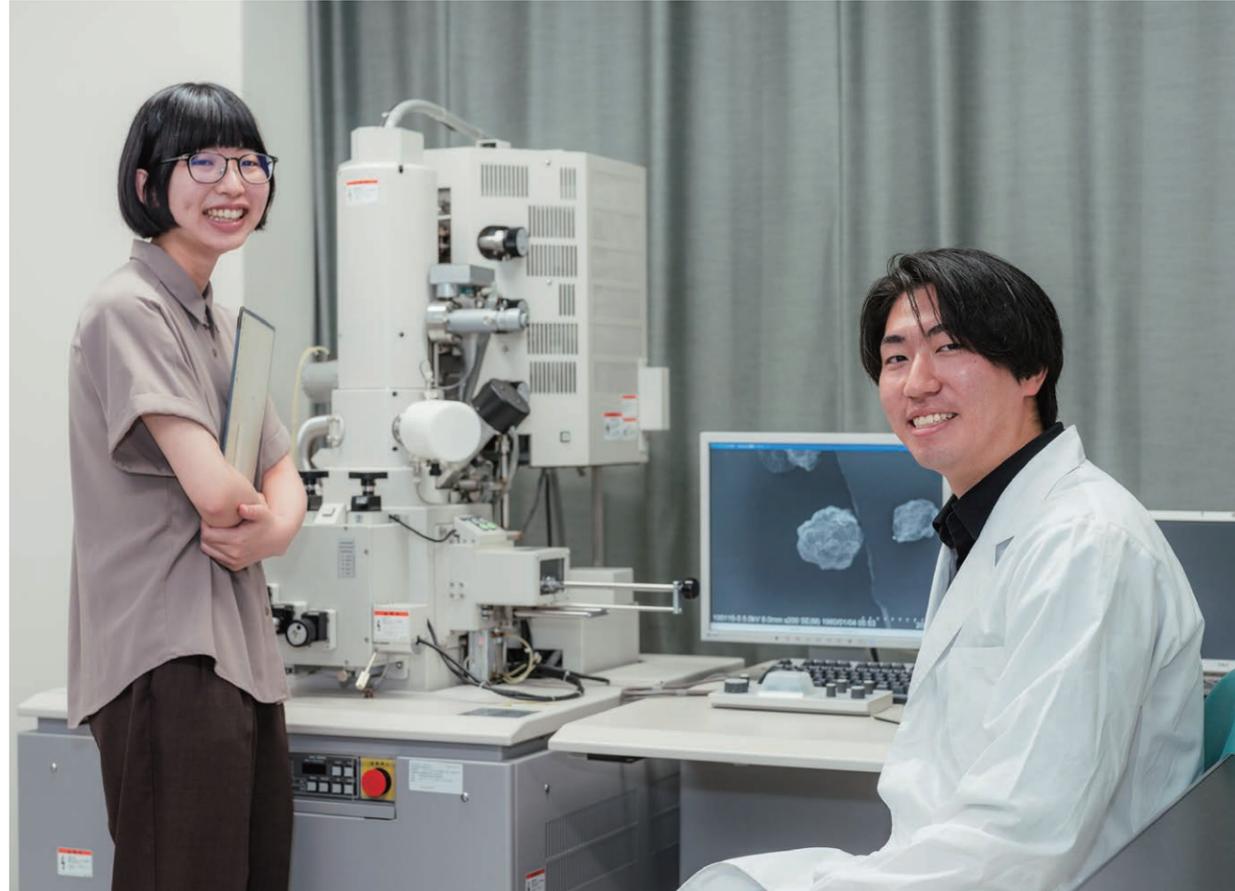


※生物資源科学部の各学科からは、博士前期課程のうち主に環境共生科学コース、生命科学コース、農林生産学コースへの進学となります。続けて博士後期課程へ進学した場合は主に環境共生科学分野と生命科学分野への進学となります。

生命科学科



生命科学の探求



生命科学科では、微生物から動物・植物に至る多様な生物が示す様々な生命現象についての基本的な理解と根本原理の解明をめざすとともに、これら生物が有する様々な有用機能を食品・化学工業、医薬・農業製造業などの生物・化学産業に役立てるための教育と研究を行います。生命現象の不思議さを追求し応用する過程を通し、論理的思考力、問題解決能力を身に付け、社会で活躍するための資質能力を向上させることができます。

卒業後の進路

- 大学院進学(修士・博士課程)
- 中学・高校教員 ■国家・地方公務員
- 教育・研究機関職員
- 製薬・食品会社 ■環境関連産業
- 動物及び植物などを扱う関連施設(水族館・動物病院・多機能型牧場など)
- 食品、医薬、化学工業、農林水産業などの技術者、研究者

活躍する卒業生

私は島根県職員(食品衛生職)として働いており、一般消費者の方への食中毒予防の啓発や食品関係施設の監視指導、食中毒発生時の調査、検査等に携わっています。

学部、大学院での研究は、分子カプセルを用いた難水溶性物質の可溶化や、細胞内への物質の輸送について研究を行っていました。学部、大学院で学んだ基礎的な技術や、探究する力を活かし、公務員としてより多くの社会貢献ができるように努力しています。

島根大学は、地理的にとても豊かな自然に囲まれています。自然豊かなこの地で、勉強と遊びを全力で楽しんでください。

島根県松江保健所 久武 怜市さん | 2014年(平成26年)3月 生命工学科(現生命科学科)卒業、2016年(平成28年)3月 生物資源科学研究科修士

concept 教育の特色

生命科学科では、生命科学の基礎から応用まで幅広くしっかり学べるように、授業の種類を豊富に用意しています。1年次には基盤科目や生命科学基礎セミナーで基礎学力を涵養し、さらに2年次からは特色のある4つの教育コース「細胞生物学」、「水圏・多様性生物学」、「生命機能化学」、「食生命科学」のうちのいずれかの教育コースを選択することで、より専門的な知識を身に付けることができます。「細胞生物学」と「水圏・多様性生物学」の2コースは連携しており、生物学を基礎とした理学的教育に重点を置いた生物系カリキュラムを提供します。生物系2コースは、附属生物資源教育研究センター海洋生物科学部門(隠岐臨海実験所)と連携しており、実験所の教員の指導のもとで卒業研究を行うこともできます。一方、「生命機能化学」と「食生命科学」の2コースも連携して、生物学と化学を基礎とし、生命の仕組みを食品・化学工業、医薬・農業製造業などの生物・化学産業へと応用可能な農芸化学的教育に重点を置いた生命工学系カリキュラムを提供します。また、生命工学系2コースは、総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と教育・研究で連携しており、センター教員の指導が受けられる学際的卒業研究も行っています。



「選べる4つの教育コース」

■細胞生物学コース

細胞生物学コースでは、細菌や原生動物から動植物まで幅広い分類群を対象とし、それら生物が示す様々な生命現象を分子・細胞・組織・個体レベルで捉え、理解する能力を育み、ライフサイエンスの発展に寄与し、様々な分野で活躍する人材を育成することを目標としています。生物の分子・生理・発生機構の分析を通して、現象の背後の論理を理解し、「How」に答えるための論理的な思考能力・観察能力・洞察力などを養います。

■水圏・多様性生物学コース

日本海から宍道湖・中海を含む湖沼河川まで多様な水域とその周辺の陸環境がもつ豊かな生物多様性を基礎科学的観点から捉え、理解する能力を育み、生物資源の持続・有効利用と環境保全に寄与し、この分野を牽引する人材を育成することを目標としています。生物多様性の進化・維持機構及び生態系における多様性の機能を実験・観察・数値的分析を通して理解することで、「How」や「Why」に答えるための論理的な思考能力を養います。

■生命機能化学コース

生命現象は、生命体内に存在する多様な分子の働きが複雑に組合わさることで引き起こされます。そのメカニズムを生物と化学の両方の視点から理解し、有用な機能として医薬系や化学系の分野に応用する知識と技能を有した人材の育成を目指します。生物学、化学及びその融合分野の基盤的・専門的科目を重点的に履修します。

■食生命科学コース

食品に含まれる栄養成分や有用成分を人体が活用する仕組み、食料の生産に寄与する生命の仕組みなど、食に関係する生命現象を理解し、食品やバイオテクノロジーの分野に応用する技能を有した人材の育成を目指します。生物学と化学に関する基盤的科目に加え、食品、栄養、微生物、細胞培養などに関する専門科目を履修します。

curriculum カリキュラム

生命科学科では、1年次に自然科学系学部共通科目及び基盤科目を履修した後、2年次からは、生物学を主体とする2コース(細胞生物学コース、水圏・多様性生物学コース)及び生物学と化学を主体とする2コース(生命機能化学コース、食生命科学コース)のいずれかのコースに所属して専門教育を学びます。3年次後期からは各研究室に配属され、卒業研究の実施に向けた活動が始まります。



「履修モデル」

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|-----------|--------------------------------------|---|-----------|--------------|
| 細胞生物学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(生物学、微生物学他) | 専門科目 (発生生物学、植物生理学、動物生理学、免疫学、植物分子生物学、形態形成学他) | | 卒業研究 |
| | 基礎セミナー | 実験 / セミナー | 実験 / セミナー | |
| 水圏・多様性生物学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(生物学、化学、動物学他) | 専門科目 (水圏・多様性生物学特論、生態学通論、水圏生態学、進化遺伝学、海洋生物学、多様性植物学他) | | 卒業研究 |
| | 基礎セミナー | 実験 / セミナー | 実験 / セミナー | |
| 生命機能化学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(化学、基礎有機化学、物理化学他) | 専門科目 (生命機能化学特論、化学生物学、植物光合成生理学、生物有機化学、生命分子分光学、分子認識工学、農業生物制御工学、バイオシグナル工学他) | | 卒業演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー | 実験 / セミナー | 実験 / セミナー | |
| 食生命科学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(生物学、植物学、微生物学他) | 専門科目 (分子生物学、食生命科学特論、食品微生物学、食品衛生学、食品機能学、食品/バイオテクノロジー、細胞工学、遺伝子工学他) | | 卒業演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー | 実験 / セミナー | 実験 / セミナー | |

ミクロな視点から 生命現象を科学する

細胞生物学コース

1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して細胞・遺伝子・タンパク質など、ミクロな視点から生物を理解するための実験技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、植物・動物・微生物の分子・生理・発生・細胞機構における研究を行い、ミクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【細胞生命の研究】

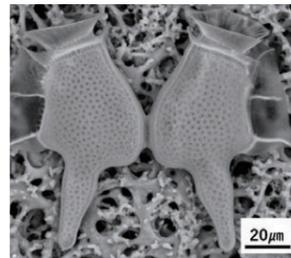
モデル植物における分子の役割、原生動物の細胞運動、細胞内共生の成立機構、脊椎動物の体液調節機構、イネによる土壌浄化など、分子・細胞・組織レベルの生命現象に関する研究を行っています。

取得可能な
資格

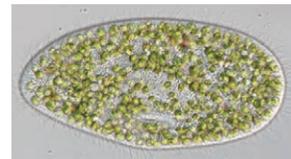
- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員
- 食の6次産業化プロデューサー



生物学実験の実習風景



渦鞭毛藻類ディノフィシス



ミドリソウリムシ

マクロな視点から 生命現象を科学する

水圏・多様性生物学コース

1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して行動・生態・進化など、マクロな視点から生物を理解するための実験・野外調査・理論の技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、隠岐諸島や宍道湖をはじめとした山陰の生態系にみられる動植物の進化・生態学的研究を行い、マクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【進化・生態の研究】

動植物の遺伝的分化・系統進化、島嶼生物の保全遺伝、環境DNAを用いた生物モニタリング、頭足類や哺乳類の生殖機構、生物多様性の進化・維持機構の理論分析など、個体から生態系レベルまでの生物現象について進化・生態学的な研究を行っています。

取得可能な
資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 学芸員
- 食の6次産業化プロデューサー



基礎生物学実験の実習風景



博物館実習

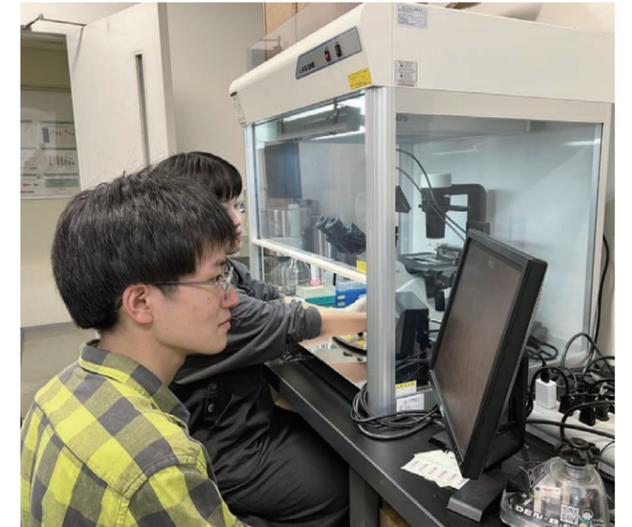
分子レベルで 生命現象を解明する

生命機能化学コース

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。生物学と化学の融合領域として化学生物学、植物光生理生化学、生物有機化学、農業生物制御化学、分子認識工学などを、また、応用領域として細胞工学、バイオシグナル工学などを履修します。一方で、この間、基礎から専門に至る12種類の実験科目を受講します。3年次後期から研究室に分属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、生体分子に関する分子分光学的研究、分子が互いを識別する原理の解明、脱皮・変態・休眠・相変異などの昆虫内分泌の解明、神経伝達物質受容体に作用する新規リガンドの合成、昆虫幼若ホルモンの作用機構、活性酸素種の代謝、植物におけるビタミンCなど抗酸化物質の合成や生理作用、補酵素の代謝調節機構などの研究が活発に行われています。大学院生はもとより、4年生が学会発表することも珍しくありません。

取得可能な
資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ■食品衛生管理者
- 食の6次産業化プロデューサー



ユーグレナ



次世代シーケンサー

食に関わる 生命現象を解明する

食生命科学コース

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。食の生命科学に関する基礎領域として、食生命科学特論、食品生化学、食品衛生学、食品微生物学、栄養生命科学などを、また、応用領域として食品バイオテクノロジー、食品機能学、細胞工学、栄養シグナリングなどを履修します。生命機能化学コースと共通の12種類の実験科目も受講します。3年次後期から研究室に分属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、動物培養細胞を用いた生理活性物質の作用機構、脂溶性機能性食品成分の生体利用性、脂肪酸由来生理活性物質の生合成機構、コエンザイムQ10の生合成機構と機能、腸内細菌・乳酸菌の生理機能、酵母のストレス応答と細胞周期、食品機能性成分を増強した植物の開発、穀物の栄養成分の蓄積機構などの研究が行われています。学生が学会で研究発表することもよくあります。

取得可能な
資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
- 食品衛生監視員 ■食品衛生管理者
- 食の6次産業化プロデューサー



タマネギ細胞のタンパク質の蛍光バイオイメージング実験

農林生産学科

農林業による豊かな暮らしの実現



農林生産学科は、農林業生産による豊かな人間生活の実現を目指して、農産物及び林産物に関する持続可能な生産技術と経営・経済について教育と研究を行う学科です。資源作物・畜産学、園芸植物科学、農業経済学、森林学の4つの教育コースからなる本学科では、相互に連携したカリキュラムにより農林生産学全般を広く学びつつ、各コースの専門的な知識・技術の修得を図ることができます。自然、生物、食に関して興味がある人を求めており、将来、農林業自営、JAなどの農林業団体の職員、種苗・食品・医薬・環境・機械などの農林関連企業における技術職・営業職、国や地方の公務員、中学・高校の教員などとして活躍されることを期待しています。

卒業後の進路

- 大学院進学（修士課程・博士課程）
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- JA、森林組合、林業公社、食品、種苗、飼料、農業、医薬、機械、住宅設備、造園、環境コンサルタントなどの農林関連企業・団体、農林自営業

活躍する卒業生

総合職として林野庁に採用され、現在は北海道森林管理局網走西部森林管理署で造林担当として勤務しています。大学では、森林内でのGNSSの精度の向上に関する研究を行っていました。実際の林業の現場をみて、もっと効率化できないかと疑問に感じたことをきっかけに研究テーマが決まり、非常に自由に研究をさせていただくことができました。研究では、柔軟な発想力や論理的な思考力を身につけることができました。「地方」大学である島根大学にいたからこそ、自身や物事を客観視することができ、戦略的に物事に取り組むことができた結果、今の私があると感じています。

林野庁 北海道森林管理局 網走西部森林管理署 業務グループ **松崎 陽平**さん | 2022年(令和4年)3月 農林生産学科卒業

concept 教育の特色

豊かな自然環境に恵まれた山陰地域という立地条件を活かしたフィールド学習を含む幅広いカリキュラムを通して、農林業とそれを巻き巻く生態系と地域社会について総合的に学びます。さらに、農林生産学を代表する4つの教育コースのうちの1つを選択する2年次からは、先端的研究を行う教員による専門的な講義、実習、卒業研究の指導を通して、深い知識と高い技術を身に付け、農林業、食品、医薬、環境、地域、学術研究などに関わる将来の進路選択に備えます。



「選べる4つの教育コース」

■資源作物・畜産学コース

人の主なエネルギー供給源となるイネなどの資源作物及び家畜の肉、乳の安定的な供給と持続可能な生産を目的とした理論、技術を修得し、作物・動物の生産に特化した専門的な知識と理解を深め、それらに関する応用力を養うと共に、地域の農畜産物の生産現場に合わせた食料生産の向上を視野に入れた講義、実習、実験を行います。

■農業経済学コース

農と食のマーケティング、6次産業化、農家経営、農業の担い手、アグリビジネス、地域活性化、地域資源管理、途上国発展など、食料、農業、農村をめぐる諸事象について総合的に理解し、社会科学の視点から独自に考察・提案できる能力を備え、国内、国外、農村、都市を問わず持続可能な地域社会の創造に貢献できる人材を育成します。

■園芸植物科学コース

果物、野菜、花などの園芸植物を材料とし、植物資源開発、植物工場、園芸植物利用における専門知識について教育すると共に、地域の自然環境を活かした園芸植物の効率的生産、品質改良、6次産業化などに関するフィールド実習及び研究を網羅した特色ある教育を行うことで園芸生産や利用分野で活躍する技能を有した人材を育成します。

■森林学コース

私達の暮らしに欠かせない森林・林業について教育と研究を行います。森林の育成と保全・計画、林内環境、森林利用のための林業機械、地理情報システム・GPS・ドローン・人工衛星を利用した森林の調査と管理、森林を取り巻く政策・経済、再生可能なエネルギー利用、野生動物管理など、森林を総合的に学ぶことができます。

curriculum カリキュラム

農林業に関する広い視野を育む基礎セミナー及び実習から専門的な学びがスタートします。4つの教育コースに分かれる2年次からは、選択したコースの講義や実験・実習・セミナーを主に履修することにより、専門的な知識と技術の修得を目指します。また、各人の興味に合わせて、他コースの多様な講義やフィールド系の実習・セミナーなども履修します。4年次には、修得した知識や技術を活用し、発展させる力を養成する卒業研究に取り組みます。



「履修モデル」

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|----------|----------------------------------|--|--------------------|--------------|
| | 全学共通教育科目 | | | |
| 資源作物・畜産学 | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(資源作物・畜産学概論他) | 専門科目 (作物学、家畜栄養学、植物栄養学、資源作物学、耕地栽培学他) | | 英語演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | 実験 / 演習 | 専攻演習 / 専攻実験 / 特別研究 | |
| | 全学共通教育科目 | | | |
| 園芸植物科学 | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(園芸生産学概論他) | 専門科目 (果樹園芸学、野菜園芸学、花卉園芸学、植物育種学、施設園芸学、6次産業化概論他) | | 英語演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | 実験 / 演習 | 専攻実験 | |
| | 全学共通教育科目 | | | |
| 農業経済学 | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(農学原論、経済原論他) | 専門科目 (農業経済学、農業経営学、農政学、食と農の地域学、アグリバイオビジネス学他) | | 卒論演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | セミナー / 演習 | 卒論演習 | |
| | 全学共通教育科目 | | | |
| 森林学 | 自然科学系学部共通科目 基盤科目(植物学、統計学他) | 専門科目 (森林計画学、森林ジオインフォマティクス、森林利用学、林政学他) | | 卒業演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | 実験 / 演習 | 実験 / 演習 | |

農畜産物の生産性向上を通して 人類の食を支える

資源作物・畜産学コース

国内外の農業は、地球温暖化に伴う環境変動、生産者の高齢化、関税の引き下げ・自由化に伴う国際競争といった多様で深刻な問題を抱えています。資源作物・畜産学コースでは、人類の主たるエネルギー供給源となるイネ、ダイズ、サツマイモなどの資源作物やウシやヒツジといった家畜に焦点を当て、こうした自然・社会環境の変化に起因する農業問題の解決に貢献できる人材を育成します。1、2年次において講義、実験、実習を通して農畜産物の生理・生態的特性や管理技術など、生産に必要なとされる専門知識、理論、技術を学んだ上で、3、4年次からは気象、土壌などが収穫量や品質に及ぼす影響の解析、有用微生物を利用した栽培技術の開発、動物の栄養・生理的な特性の究明、家畜飼料の開発、肉・乳の効率的生産及び品質向上を目指した研究に取り組みます。



取得可能な資格
 ■教育職員免許状
 (高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
 ■食の6次産業化プロデューサー

園芸植物の 高付加価値化の実現

園芸植物科学コース

人々が豊かな生活を送る中で、園芸作物に対する色、形、香り、そして食味などの様々なニーズが増加しています。また、消費者の健康や食の安全、地域ブランドに対する関心の高まりもあります。園芸植物科学コースでは、ブドウ、カキ、メロン、イチゴ、ダイコン、トマト、サクラ、ツツジといった果物、野菜及び花を主な対象とし、栽培管理・作型、育種・遺伝資源、貯蔵・加工、機能性・特産品開発などについて学びます。1、2年次において講義、実験、実習を通して園芸植物の生理学や遺伝学の基礎的知識をはじめ、育種法や栽培技術に関する専門知識を学びます。3年次からは課題研究に取り組み、栽培試験や品質調査をはじめ、機能性成分分析や遺伝子解析なども行い、園芸植物の品種開発や高付加価値化に向けた栽培・加工技術の改良を目指します。



取得可能な資格
 ■教育職員免許状
 (高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
 ■食の6次産業化プロデューサー

食と農の現場を解明し問題解決に 貢献する文理融合型の農学

農業経済学コース

学部の中で唯一、社会科学を広く学ぶことができるコースです。1、2年次には、農業経済学の基礎知識の習得に加え、フィールドワークで農業・農村の現場を体験し、社会調査の基礎を学びます。2、3年次には、食・農業・農村の問題解決に向けた経済学・経営学・政策学・社会学・歴史学などの応用理論を学びます。3年次からは、各自の関心や目的に合った研究室に所属し、教員の指導の下、学生自らが研究テーマを設定し、フィールド調査や文献調査を行い、科学的分析・論考を重ねて、卒業研究にまとめていきます。

基盤科目で自然科学の科目を広く選択できる他、農学に関する科目を専門科目として履修でき、農業関係の職に就きやすいように配慮されています。また、文系・理系両方の分野を学んだことを就職活動の強みにすることもできます。

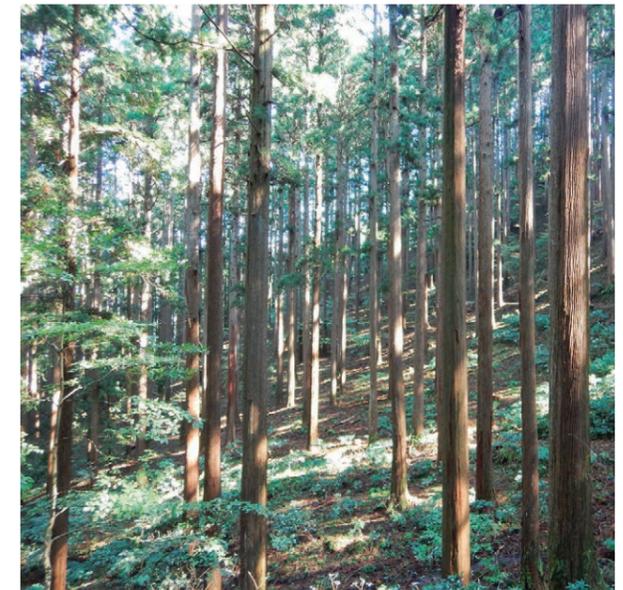


取得可能な資格
 ■教育職員免許状
 (高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
 ■食の6次産業化プロデューサー

森林の育成と保全, 林業の発展に貢献する

森林学コース

1年次には大学4年間の基盤となる科目と共に、農林生産学科の入門科目を履修します。2年次になるとコースに所属し、森林学の講義に加え、大学の演習林や地域のフィールドに出て実習を行います。それは3年次になるとより専門化し、一方で、専門と専門を繋いだ応用編としての実習に引き継がれます。同時に、セミナー形式で自らの興味を掘り下げていき、卒業研究のテーマを考えていきます。本コースは、卒業研究を必修としています。3年次の前期から卒業研究の計画を始め、調査・研究を行い、4年次の秋に中間発表、冬に卒業論文を書き上げ、最後に4年間の成果として発表会を行います。森林学を総合的に学び、自ら卒業研究に取り組むことで、森林・林業関連の公務員、事業者の職員として必要な力を身に付けることができます。



取得可能な資格
 ■教育職員免許状(高等学校一種(農業・理科), 中学校一種(理科))
 ■森林情報士(森林GIS部門)
 ■食の6次産業化プロデューサー

環境共生科学科

環境調和型社会の構築を目指して

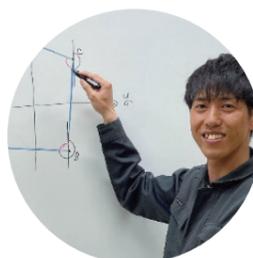


環境共生科学科では、土・水・生物などの資源と環境を適切に保全・管理しつつ持続的に利用していく環境調和型社会の構築や、その実践のために必要となる専門知識や技術に関する科学と工学の両観点からの教育を重視します。学生の皆さんは、2年次から環境生物学・生態環境学・環境動態学・地域工学という、互いに重なり合いつつも特色ある4つの教育コースに配属され、多角的な視点から、地域の持続的な発展に貢献する様々な手法の修得を目指します。就職先には公務員、教員、機械・電機系の会社、IT関連企業、食品関連の会社、建設会社、技術コンサルタント会社、環境コンサルタント会社などがあります。

卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- 環境調査、緑化、水処理、食品、機械、建設、ソフトウェア開発などの各種企業や団体

活躍する卒業生



熊本県の農業高校出身で高校から大学院まで農業土木について学びました。土壌物理学について研究を行い、学会での研究発表や「自分の研究」というところにやりがいを感じ、研究室の仲間とともに研究に打ち込みました。就職活動では、同じ職種先輩や友達と情報交換しながら切磋琢磨し乗り越えました。親身に相談に乗ってくださる先生方や先輩、仲のいい友達や後輩のおかげで大学生活の中で人生の宝物がたくさんできました。島根大学で学んだことを十分に発揮し、現在は島根県の県立高校で農業土木専門の教職員として働いています。

島根県立益田翔陽高等学校 教諭 畑野 憲人さん | 2019年(令和元年)3月 地域環境科学科(現環境共生科学科)卒業、2021年(令和3年)3月 自然科学研究科修了

concept 教育の特色

入学後に、まず共通の基礎となる科目を学んだ後、2年次に教育コースを決定します。そして各コースの発展的な科目や応用的な科目へ進んでいき、身近な生物や環境問題を科学的に捉える方法や、実社会で使われている工学を学ぶと共に、問題解決に必要な広い視野と実践的な技術を養います。環境共生科学科の全教員が4つ全てのコースに関わるため、幅広い内容が学べます。



「選べる4つの教育コース」

■環境生物学コース

中山間地域の森林・里山から農耕地を経て、河川・汽水域に至る広域な環境に生息する生物を対象とします。植物の病気発生機構、昆虫の利用や防除、自然界での微生物の働き、森林の健全な育成と保全などに注目し、その生命現象と多面的な意義について履修します。持続的な農業や生物資源の利活用を目指し、環境と生物、生物と生物の相互作用に関する知識と研究手法を修得します。

■生態環境学コース

ヒトと自然の共存や生態系の保全を目指し、生物が生息する水・土環境で生じる多様な現象とそのメカニズムを科学的視点から理解するための知識と方法について履修します。山・川・湖沼・海を含む流域を対象に、水域では水生生物と生息環境・水質・水文に関して、陸域では森林・草地や農耕地の調査・評価方法を修得します。

■環境動態学コース

地域資源循環型社会の構築を目指し、地域資源を有効かつ持続的に利用するための、また、人間活動と共存できる生態系を保全・修復するための知識と技術を履修します。土、水、大気、生物及び人工物を介した物質の移動や循環をミクロ及びマクロの視点から理解・制御する方法や、水や土環境を保全・修復する工学的的手法を修得します。

■地域工学コース

農村地域や中山間地域が有する地域資源を有効に活用して、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造・管理・保全するための専門的な基礎学力と技術を、工学的な観点から修得します。また、科学技術が公衆や環境に及ぼす影響(有用性と危険性)並びに責務といった技術者倫理や、必ずしも解が1つではない課題にアプローチするエンジニアリング・デザインについても履修します。

curriculum カリキュラム

環境共生科学科では、各学生が2年次に4つの教育コースから1つを選択します。各コースの科目は互いに特色を有しつつも、密接に関わっています。

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|-------|---------------------------------|--|------|--------------|
| 環境生物学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基礎科目 | 専門科目 (植物病理学概論、環境昆虫学、森林土壌学、農業環境科学、森林生態学、共生微生物学他) | | 卒業演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | 実験 / 実習 | 専攻実験 | |
| 生態環境学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基礎科目(植物学、基礎土壌学他) | 専門科目 (水環境保全学、水圏生態学、植物栄養生態学、汽水域生態学、バイオマス利用学、水質環境工学他) | | 卒業演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | 実験 / 実習 | 専攻実験 | |
| 環境動態学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基礎科目(物理学、水環境学他) | 専門科目 (応用数学、環境分析化学、水環境保全学、水と緑の環境工学、植物環境工学他) | | 卒業演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | 実験 / 演習 | 専攻実験 | |
| 地域工学 | 全学共通教育科目 | | | |
| | 自然科学系学部共通科目 基礎科目(基礎水理学他) | 専門科目 (土壌物理学、土質工学、構造力学の基礎、水理学、流域水文学、かんがい排水学他) | | 卒業演習 卒業研究 |
| | 基礎セミナー・実習 | 実験 / 実習 | 専攻実験 | |

【豊富な専門講義で幅広く学ぶ】

- 水環境保全学 ■水圏生態学 ■汽水域生態学 ■水質環境工学
- 地域計画学 ■水と緑の環境工学 ■バイオマス利用学 ■構造力学
- 水質水文学 ■かんがい排水学 ■農地保全学 ■水利施設工学
- 環境昆虫学 ■共生微生物学 ■植物保護学 ■森林生態学
- 森林土壌学 ■森林水文学



自然環境中の多様な生物を科学する

環境生物学コース

環境生物学コースに所属した学生は、2年次に植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学の専門科目と実験を履修します。3年次になると、1、2年次に学んだ知識と技術を生かして植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学のいずれかに関する研究課題に各個人で取り組み、4年次に卒業研究として成果を発表します。本コースでは、特に3年次以降に、他学科の専門科目を含む極めて多彩な科目の中から各自の興味、将来設計、就職希望などに適した科目を自由に選択できます。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■学芸員 ■樹木医補
- 食の6次産業化プロデューサー



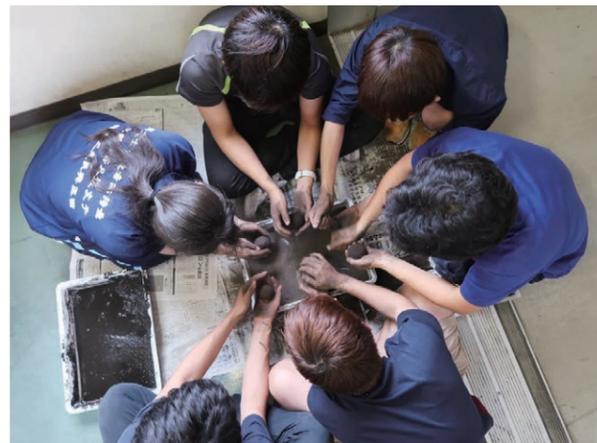
人と自然の共存や生態系の保全を目指す

生態環境学コース

生態環境学コースでは、生物や生態系に関する基礎知識に加え、それらが息づく水圏や土壌圏の特徴について学びます。基礎的な科目として統計学、生態学、水環境学、基礎土壌学などを履修し、続いて水圏生態学、汽水域生態学、植物環境学といった発展的な内容の科目を履修します。これらに加えて、生態系などに関する調査を行うための基礎的な知識や、豊かな自然を守っていくために必要な技術を修得するため水環境保全学、環境分析化学実験、水質環境工学などの科目を履修します。また、4年次に行う卒業研究の準備として、外書講読、生態環境科学実習や専攻実験といった実習や実験が用意されています。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■学芸員
- 食の6次産業化プロデューサー



地域資源循環型社会の構築を目指す

環境動態学コース

豊かな自然環境と快適な人間生活の共存を実現するために、動的に変化していく自然環境や生態系を調べて理解するための知識と、資源を浪費しない地域社会を実現するための技術を学びます。自然界の物質循環を理解するために、環境分析化学、水環境学、基礎水理学、水質水文学、基礎土壌学、土壌物理学、環境分析化学実験などの科目を履修し、また、生態学、水圏生態学などを通して生態系に関する基礎的な知識を得ます。さらに、農地工学、農地保全学、かんがい排水学、水質環境工学、バイオマス利用学などを履修することで、地域での快適な生活を実現する技術について学びます。そして地域計画学などで得た知識を基に、自然環境と人間生活のバランスの取り方に関する考え方を修得します。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補
- 食の6次産業化プロデューサー



地域資源の有効活用を目指す

地域工学コース

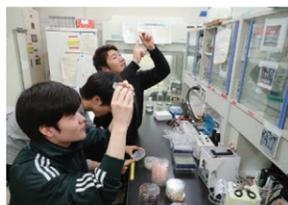
土・水・社会基盤からなる地域資源を整備、維持することで、良好な地域社会を実現するための知識と技術を修得します。良質な農地を実現できる知識を学ぶために、土壌物理学、農地工学、農地保全学、測量学などを履修します。また、水理学、流域水文学、水質水文学、かんがい排水学などの科目を通して、農地へ水を供給するための知識を修得し、土質工学、構造力学、水利施設工学などを学ぶことで、機能的な社会基盤を実現するための知識を得ます。さらには地域計画学、エンジニアリング・デザイン演習などの科目によって、各種の実験・実習で知識の定着と技術の修得を図ります。

取得可能な資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ■測量士補
- 食の6次産業化プロデューサー



教育コースに関係なく進められる4つの研究分野



環境共生科学科の教員は、自然環境と人間生活をより良い形で共存させるために様々な研究を行っています。4つの分野に分かれ、それぞれが特徴的な研究を進めています。最終的な目標は同じです。学生は3年次に卒業研究の指導教員を決定し、その教員の指導の下で卒業研究を行い、卒業論文にまとめます。選択している教育コースに関係なく、希望する分野の教員の指導を受けることができます。

【環境生物学分野】 環境生物学分野では、環境と生物、生物と生物の相互作用に注目し、生物の多様な生命現象の解明を通して、生物多様性に支えられた豊かで持続可能な農業や生物資源の利活用を目指しています。植物の病気発生機構と防除、昆虫の生態や利用と防除、自然界での微生物の働きと利用、森林の健全な育成と保全などに関する基礎から応用までの幅広い研究を行っています。

【生態環境工学分野】 生態環境工学分野では、良好な自然の保全や、すでに失われた自然環境を取り戻すための学問である生態工学をベースに、水環境及び土壌環境の保全修復に取り組んでいます。特に水生生物の調査、微生物や吸着剤による水処理、劣化土壌での持続的生産、有機性廃棄物の有効利用、土壌を用いた水処理などの研究を行っています。

【生物環境情報工学分野】 生物環境情報工学分野では、環境と生物の関わりを調べて活用する研究、物質の時空間分布や偏在の情報を収集・予測し環境改善する研究や、生物を構成する物質や個体群のパターンをもたらす因子を明らかにし、その情報を応用する研究を行っています。

【地域環境工学分野】 地域環境工学分野では、自然環境と調和した地域の社会基盤を実現するための研究を行っています。水・土・社会基盤のそれぞれを良好に保つための技術や考え方、水や物質の循環を把握し改善する手法などの開発を目指しています。





ここにしかない学び — 自然を活かしたフィールド教育 —



三瓶演習林の人工林ほか

森林、耕地、海は私たちに不可欠な生活資材や食べ物など様々な生物資源のめぐみを与えると同時に、多様な生物環境を形成しており豊かな人間生活をもたらしています。

附属生物資源教育研究センターは、森林科学部門、農業生産科学部門、海洋生物科学部門の3部門で構成されています。それぞれの部門では、演習林、農場、臨海実験所などの地域を生かした施設を活用して特徴的なフィールド教育研究活動を行っています。さらに、水が山から里、海に流れていくように、森林、耕地、海の有機的なつながりを意識しながら教養教育、専門教育、さらには社会教育にも積極的に取り組んでいます。

また、自然科学系のみならず人文社会系の学生も履修できる教養科目として「自然と語ろう」を開講しており、特別副専攻プログラムのフィールド教育プログラムを提供しています。さらに他大学生を対象とした公開実習を開講し大学間の教育・研究の連携交流を進めています。



ドローンを用いた森林上空のCO₂濃度測定



センサー分解組立の実習



三瓶演習林の紅葉



要注意!ギンカクラゲ



タコツボに入って様子伺うマダコ



農業機械の運転実習

森を訪れ、森を畏れ、森を学ぶ

森林科学部門 (三瓶演習林・匹見演習林・松江試験地)

島根大学には、島根県内に三瓶演習林(大田市と飯南町)、匹見演習林(益田市)、そして松江試験地(松江市)の3ヶ所の演習林があります。

3ヶ所の演習林は、ツキノワグマとブナ林のみられる落葉広葉樹林の分布する匹見演習林、常緑広葉樹林から落葉広葉樹林への移行帯にあたる三瓶演習林、常緑広葉樹林の分布する松江試験地とそれぞれ特徴のある森林帯に位置します。島根大学における森林に関する教育研究の実践の場として整備された演習林は、農林生産学科や環境共生科学科のカリキュラムの中で多くの実習教育と卒業研究に利用されています。公開森林実習では他大学の学生との交流の機会が得られます。

あなたもぜひ、島根大学演習林で新しい発見を!

《演習林の長期研究課題》

- 気象観測
- 広葉樹二次林の長期動態
- 酸性雨の影響
- 樹木の展葉落葉フェノロジー
- 小渓流の流量観測



三瓶演習林露場に日射計を設置する学生たち

人と環境にやさしい農業とは

農業生産科学部門 (本庄総合農場・神西砂丘農場)

農業生産科学部門では、農業の生産性向上のための技術と人や環境との関わりを体験できる実習を行っています。本庄総合農場(15ha)にある水田、畑、ガラスハウスで様々な作物を栽培し、作物の育て方や肥料・農薬の使用量が環境に及ぼす影響を観察しながら農業と環境の関わりについて学びます。毎年約120名の学生が農場実習に参加します。

研究活動はおもに松江市の本庄総合農場と出雲市の神西砂丘農場で行われ、以下のような研究や調査を教員・技術職員・学生が協力して行っています。

- 栽培作物の生産性向上要因の解析
- 土耕・水耕栽培における生理障害の要因解明
- 新しい作型・栽培技術の開発
- 土壌中の有機・無機成分のモニタリング
- 地域資源を用いた加工品の開発



田植え実習

日本海のアップフロント・隠岐

海洋生物科学部門 (隠岐臨海実験所)

海洋生物科学部門は、学外教育研究施設として隠岐の島に3隻の実習船を備えた臨海実験所が設置されています。実験所の利用は全国に開放されており、公開実習など多くの大学生・研究者が全国各地から訪れます。

実験所で行う臨海実習では、海洋生物と環境に直接触れることにより、生物多様性の意味、生物の環境への巧妙な適応戦略、生物と人間生活との関連性を学ぶことができます。海洋で採れる新鮮な実験材料を利用して、海洋の生物多様性、および海産無脊椎動物の生理・発生を体験できます。

また、隠岐の島は日本海西部の流れる対馬海流の最上流域にあたり、地球温暖化に伴う日本海の生物相の変化を観測するのに適した場所です。本来は生息していなかったヒョウモンダコやヒメカンムリヒトデなど南方系の海洋生物が定着していることが確認され、環境変動を日々感じています。また、大気・海洋を通じて流れ込む汚染物質や海洋ゴミなど、人工的な環境変動の影響が顕著に見られる場所でもあります。日本海をモデルに、環境変動を観測する研究プロジェクトについて、日本海側に面した諸大学と共に環境教育についても展開していきます。



シュノーケリング練習

大学院自然科学研究科



自然を究め、持続可能な明日を創る

COURSE 博士前期課程

自然科学研究科（博士前期課程）は、総合理工学研究科と生物資源科学研究科を融合した平成30年度設置の研究科です。両研究科を統合し、3つの新しい専攻を設置しています。本研究科では確かな専門知識や技術、超スマート社会で主体的な役割を担うための情報技術力、外国語によるコミュニケーション力とグローバルな感性、そして柔軟な発想力を養います。それにより、科学・技術の発展と持続可能な社会の実現に俯瞰的・総合的視点から寄与できる創造性豊かな高度技術者・研究者及びグローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材を養成します。生物資源科学部の各学科からは、主に環境システム科学専攻（環境共生科学コース）、農生命科学専攻（生命科学コース、農林生産学コース）への進学となります。

生物資源科学部からは主に2つの専攻（環境システム科学専攻・農生命科学専攻）へ進学



環境と調和した社会への貢献

環境システム科学専攻

環境システム科学専攻には、地球科学コース、環境共生科学コース、物質化学コース、建築デザイン学コースが設置されています。本専攻では、地球科学、環境共生科学、化学、建築学の基礎知識を身に付け、その知識を基に、環境と調和したより豊かな社会の構築に貢献する、実践力と創造力を備えた国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。



生命科学と農学の発展に貢献

農生命科学専攻

農生命科学専攻には、生命科学コース、農林生産学コースが設置されています。本専攻では、生命機能を科学する能力を備え、農林生産物を活用するための高度な専門知識・技術・課題解決能力を有し、かつ国際感覚に優れた自立的で人間性豊かな高度技術者・研究者を養成します。



科学技術や社会の創造に貢献

理工学専攻

理工学専攻には、先端材料工学コース、数理科学コース、知能情報デザイン学コース、物理・応用物理学コース、機械・電気電子学コースが設置されています。本専攻では、数理、物理、情報の基礎知識を身に付け、その知識を基に、数理科学、物理学、情報科学、機械工学、電気電子工学、材料工学の発展に寄与し、新たな科学技術や社会の創造に貢献できる国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

concept & curriculum 教育の特色・カリキュラム

自然科学研究科では、研究科共通科目という科目群を新たに設け、その中に、研究科内の各専攻の内容を俯瞰できる概論的科目、英語科目、数理・情報・生物学の基礎を学ぶ科目、研究者・技術者としての教養を身に付ける科目、そして実践的な課題解決能力やグローバルな視野を養成する海外インターンシップ科目などがあります。これにより、理工学、環境システム科学、農生命科学を総合的に学ぶことができ、自然科学系の幅広い教養教育が可能です。学部から大学院を含めた5年間又は6年間の一貫プログラムも設置し、優秀な学生は、5年間で学部・大学院を修了できる道も拓かれます。

merit 大学院進学の特長

▶ 研究職、技術職に就きやすくなる

いずれの学科においても研究職への就職率が顕著に高くなる。
生命科学科と農林生産学科においては技術職への就職率も増加する。

▶ 自分がやり始めた研究が継続でき、追求できる

卒業研究で始めた研究テーマを継続・発展させ、研究成果を自らの力で上げる機会が得られる。それを学会などで発表し、研究の楽しさを味わうことができる。

▶ 自分の将来を考える時間が持てる

学部生時代に単位取得・サークル活動・アルバイトなどで多忙な日々を送っていて、将来自分が本当にやりたい仕事については十分に考えられなかった人は、大学院で自分自身に向き合うことができる。

■就職時の職種の比較(令和5年度)

学部卒業生

生命科学科 農林生産学科 環境共生科学科

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 研究職 | 4% | 5% | 0% |
| 技術職 | 17% | 16% | 34% |

大学院自然科学研究科修了生

農生命科学専攻 (生命科学科と農林生産学科から進学) 環境システム科学専攻 (環境共生科学科から進学)

| | | |
|-----|-----|-----|
| 研究職 | 35% | 19% |
| 技術職 | 26% | 31% |

※環境システム科学専攻には、総合理工学部物質化学科、地球科学科、建築デザイン学科の卒業生も含む。 ※それぞれの主な就職先は、「進路」(26ページ)に掲載。

COURSE 博士後期課程

自然科学研究科（博士後期課程）は、科学技術イノベーションを担う博士人材と広範な理系分野の博士人材を養成するために令和2年度に設置されました。博士後期課程では、「生物」と「非生物」の枠にとらわれない、広い視野を持って新たな分野を切り拓いていける人材を育成するために「創成理工学専攻」の1専攻体制とし、研究科内の各研究分野間に融合教育を推進しています。また、地域社会からのニーズに応える形で整備した博士前期課程における教育研究体制との連続性をもたせるため、創成理工学専攻の教育研究の柱となる領域を「理工学」と「自然環境システム科学」の2つとし、それに対応させて、「理工学コース」と「自然環境システム科学コース」を設置しています。



博士後期課程在学生からのメッセージ

マダコ、皆さんも一度は口にしたことがあるのではないのでしょうか。日本では重要な水産資源ですが、目ぐるしく体色を変化させて岩に擬態したり、煙幕のような墨を吹いて逃げたりと、タコは他の動物では見られない様々な行動を見せてくれます。私は幼少期の頃から何か一つの事に取り組むのが大好きで、自由研究の一環で明石ダコを調べたことが生態への興味のきっかけでした。その魅力に取りつかれた私はタコを追いかけ博士後期課程に進学しました。実はタコの基礎生態は未だに不明な点が多く、私は隠岐の島にある臨海実験所に「タコの行動の多様化と生活史との関係」に迫るため研究を行っています。特に個体ごとの摂餌行動に着目して、日々潜水調査を行っています。

中学高校時代は国際文化科の学校に通っており、英語やフランス語を学んで国際交流にも取り組んでいました。当時はなかなか成績が伸びず辛い思いもしたのですが、現在の研究活動の中で、英文のリーディングやライティングに役立っています。加えて、世界的にもタコの行動研究は盛り上がりを見せており、国際交流の経験が今後、国際学会等への参加を後押ししてくれると考えています。身に着けたスキルがどこで生きてくるかは分かりません。皆さんも今やっていることが大変かもしれないけれど、ポジティブに「好き!」を探してください。

自然科学研究科 博士後期課程 創成理工学専攻 1年 山田真悠子さん | 2024年(令和6年)3月 修了



修了生からのメッセージ

私は、株式会社ミヨシの研究開発部に所属し、次世代のユーストマを開発するブリーダーとして働いています。在学中はサツマイモに関する研究をしていましたが、入社を機に、初めて施設園芸の世界に飛び込みました。切花の育種という未経験の分野でしたが、大学院で身に着けた植物への向き合い方と観察眼には、日々の業務で何度も助けられました。

大学院は専門的な知識だけでなく、新しい物を生み出す発想力や多様な視点を生身に着けることができる場所です。在学中になるべく多くの分野に触れ、様々な研究者とのコミュニケーションを重ね、実りのある大学院生活を過ごしてください。

株式会社ミヨシ 研究開発部 山梨育種農場 足立 浩崇さん | 2016年(平成28年)3月 修了

科学する技を磨こう！生物資源科学部の魅力！

MESSAGE from STUDENTS!

在学生に聞いてみた！



01 谷崎 岳斗さん
生命科学科
細胞生物学コース 4年生



島根の大自然で学ぶ、 生きた生物学

皆さん、こんにちは！島根大学生物資源科学部の学生として、私たちが体験できる自然豊かな環境の中での学びについてお話ししたいと思います。

特に記憶に残っているのは、2年生の時に参加した隠岐の島での臨海実習です。この実習では、通常は見ることのできない種類の海洋生物を観察ことができ、高校の生物の教科書でしか見たことのない実験を自分の手で行うことができました。これらの経験は、単に知識を深めるだけでなく、自然との一体感を感じながら、生物学の面白さと重要性を実感することができる貴重なものです。自然の中で学ぶことの楽しさと、実際に手を動かして学ぶことの大切さを実感できる場がここにはあります。このような経験は、私たちの学問への理解を深めるだけでなく、将来のキャリアにも大きな影響を与えるものです。島根大学生物資源科学部では、学生一人ひとりが自然と触れ合いながら学び、自らの可能性を広げていくことができます。

是非、この素晴らしい環境で、あなたも私たちと一緒に学び、新しい発見をしていきましょう。お待ちしております！

02 平 志穂さん
生命科学科
食生命科学コース 4年生



基礎から学べるカリキュラムで 「楽しい！」を見つける

生物資源科学部生命科学科の生命機能化学コースと食生命科学コースは、学生実験から始まる独自のカリキュラムが大きな魅力です。特に、2年生から始まる学生実験では、研究に必要な基礎的技術をしっかりと学ぶことができます。一年半をかけて履修する一連の学生実験では、実際の研究現場で使用される機器や手法を活用しながら、研究活動の基礎を体系的に学びます。初めは慣れない実験操作も、先生や先輩に教えてもらいながら、1つ1つ実践的なスキルを磨いていくことができるため、将来研究者としてのキャリアにも大きく有利になります。また、学生同士のディスカッションや共同作業を通じて、交流を深めることで毎日楽しく研究活動を行うことができます。このような学びのプロセスを通じて専門知識を深めながら、自らの興味や目標に向かって成長していく環境が島根大学には整っています。

今は具体的にやりたいことが見つかっていなくても、ここできっと面白いと思える学びに出会えると思います。

03 梁島 遥輝さん
農林生産学科
園芸植物科学コース 3年生



自分の「好き」を 大切に

農林生産学科では農林業や畜産業、そして農業経済といった幅広い分野を学ぶことができます。1年次には農場実習で田植えや野菜の栽培、収穫、加工を体験するとともに、セミナーや概論で幅広い基礎的な知識を身につけ、2年次に分属する4つのコースについて理解を深めます。2年次には分属したコースに分かれて、自分がやりたいこと、好きなこと、もっと学びたいと思ったことをより専門的に学ぶことができます。

私が所属している園芸植物科学コースでは果樹園芸学、花卉園芸学、野菜園芸学、植物育種学といった農業の中でもより集約的な分野を学ぶことができ、自然豊かな町「松江」をメインフィールドとして栽培管理、利用、加工、育種など幅広い研究が行われています。

入学後1年間は自分がどの分野に進み学びを深めるかを考える大切な期間です。やりたいことがなかなか見つからないと悩むこともあると思いますが、心配する必要はありません。日々の大学生活で得る学びや気づきを大切に、自分が「好きなこと」「興味のあること」に積極的に挑戦してみてください。皆さんの想像を超える最高の大学生活が送れるはずです。

04 長屋 明里さん
農林生産学科
森林学コース 4年生



計画的な履修で 充実した学生生活を！

農林生産学科は2年次から4つのコースに別れることになります。1年次に全てのコースを大まかに学び、2年次からはそれぞれのコースで専門的に学んでいきます。

1年、2年の時にしっかりと単位を取得していれば、3年はアルバイトや趣味などに多くの時間を使えるようになり、4年は卒業研究と自分の時間を両立できるようになります。

私の所属する森林学コースは、教員3人と生徒6~8人という、他に比べて小さいコースです。しかし、そのおかげか教員との距離が近く、相談や質問、雑談などの会話が弾みます。そのような環境の中で森林に関係することを専門的に学びます。また、フィールドワークが充実しており、座学よりも体で学ぶことが大切なコースだと思っています。

大学は自分の力で自分を管理する能力が必要不可欠です。それさえできれば、今までより自由で楽しい、充実した生活が待っているでしょう。

05 中本 南さん
環境共生科学科
環境生物学コース 3年生



ご縁で繋がる仲間たちと 「知」の道へ

我が国の生物多様性豊かな自然を保護し、後世に残していくための学びをするため、私は環境共生科学科を選びました。私が所属する環境生物学コースでは昆虫生態学や植物病理学、森林生態学、微生物生態学を講義や実験・実習を通して深く学ぶことができます。個性豊かな先生方から、生物や自然環境に関する様々な授業を受けることで、生態系の複雑な構造を多角的に理解することができ、私の大好きな自然が以前より美しいものに見えてきました。豊富な文化的観光資源で有名な島根県ですが、実は山や海や湖などの自然環境にも非常に恵まれた素晴らしい土地です。そんな自然豊かな島根県全土が私たちの学びの場「キャンパス」となっています。ここでは語り切れないほどの島根の美しい自然を、これから島根大学に入学してくださる皆さんと、一緒に楽しみたいです。

また、私はこの学科で出会った同じ意志を持つ仲間たちと、地域の子どもたちに向けた環境教育活動に取り組んでいます。こういった素敵な出会いも「ご縁の国しまね」ならではのものではないでしょうか？

06 佐藤 理湖さん
環境共生科学科
環境動態学コース 4年生



自然と学ぶ、 実践的な道のり

環境共生科学科では、座学だけでなく実験やフィールドワークを通じて、幅広い知識を身につけることができます。2年次には、4つのコースに分かれ、それぞれが興味のある分野で専門的に実践的に学びを深めていきます。私が所属している環境動態学コースでは、自然環境や生態系、土壌や水環境の保全についてなど、幅広い学習ができることが魅力です。3年次には、研究室に所属し自分の卒業研究のテーマを決め研究を進めます。コースや研究室では比較的少人数であるため、学生同士のコミュニケーションを取りやすく、先生との距離も近いため丁寧な指導を受けることができます。生き物や自然、環境に興味があるという方へ、今は将来の夢や具体的な目標が無くても、講義を通して自分の興味のあること、学びたいことが本学科ではきっと見つかるはずです。大学は高校生までとは違い、自分で何をどう学ぶのか選択できることが特徴です。

ぜひ、好奇心を持って様々な分野に飛び込んでチャレンジしてください。その経験があなたの人生をきっと豊かにするはずです。

科学の謎に挑戦！

個性豊かな教員が学生と一体となり、
様々な研究に取り組んでいます

生命科学科
分子認識工学



生命科学科
生命機能化学コース
吉清 恵介 准教授

エゴマ油の健康増進効果を 分子カプセルでさらに引き出す

オメガ3系脂肪酸が体に良いという認識は、1960年代から行われたデンマーク人とイスイットの疾病の比較を行った疫学研究に由来するとされています。一連の研究は、DHAとEPAの持つ生理学的機能の解明につながり、それら脂肪酸の健康増進効果は現在でも注目されています。実は植物もオメガ3系脂肪酸を合成します。中でも、一年草のエゴマの種子から採れるエゴマ油は、オメガ3系脂肪酸の一つである α -リノレン酸を約60%と高濃度で含みます。私は、分子カプセルを利用してエゴマ油を粉末状にし、そのように摂取したエゴマ油の健康増進効果について調べています。これまでに、エゴマ油の体内吸収性が分子カプセルを用いることで向上することを明らかにしました。現在は、それによりもたらされる多種の健康増進効果について調べており、将来的にはそれらの知見を応用した食品の開発を通して、日本のみならず世界の健康増進に貢献したいと思っています。



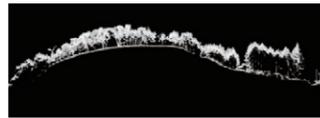
農林生産学科
森林リモートセンシング学



農林生産学科
森林学コース
米 康充 准教授

広大で変化する森林を 測量する

森林は広大で常に変化しています。そのため、地域のどこにどのような森林が生育し、また無くなっていつているのか、実はその正確な情報はわかっていません。私が専門にする森林リモートセンシング学は、森林を遠くから観測してその実態を明らかにする学問です。具体的には、色々な波長の光を撮影できるカメラやレーザー計測機器が搭載された人工衛星や航空機のデータを使用したり、近年はその機器をドローンに搭載したり人間が持ち運んだりすることで森林を次々に測量し、AIも活用し森林の資源量や健全度、土地の危険度を広い範囲で明らかにします。また、その結果を利用して森林はどのように変化していくものなのか、どのように管理するかを追求していきたいと考えています。森林を研究する森林学では、植物のことだけでなく、人間や社会、林業機械や土木、数学モデル等、さまざまな知識が必要です。森林リモートセンシング学でもコンピュータや工学的な知識が必要です。森林を理解するためには色々なことに興味を持つ姿勢が必要だと感じています。



環境共生科学科
生物環境情報工学



環境共生科学科
生物環境情報工学分野
李 治 助教

太陽光発電で 持続可能な栽培環境を作ろう

自然生態系と調和しながら持続的な生産を行うために、環境負荷のない農業を理工学的な見地から研究するのが生物環境工学です。近年、様々な高度な環境制御技術(照明、冷暖房、計測、通信など)を温室などの栽培施設に導入することより、野菜や果物が周期的に収穫できるようになりました。しかし、環境制御のための設備は、化石燃料や電気エネルギーを大量に消費しています。そのため、農作物の価格はエネルギー価格の変動に大きく左右されます。エネルギー・環境問題が深刻な今では、あらゆる分野において省エネ化に資する技術開発が求められています。私の研究では、再生可能エネルギーを代表する太陽光発電を活用して、栽培施設に必要なエネルギーをその場で生産することを試みています。植物の光合成と太陽光発電はともに日光が必要です。そのため、植物の上空に太陽光パネルを設置する場合の植物からみた日射量の挙動について研究しています。持続可能な温室栽培の実現を期待しています。



教員紹介

生命科学科

- 赤間 一仁 教授 (植物分子生物学)
- 荒西 太士 教授 (遺伝生態学)
- 石川 孝博 教授 (応用生物化学)
- 児玉 有紀 教授 (共生生物学)
- 塩月 孝博 教授 (生物制御化学)
- 清水 英寿 教授 (栄養・病態生理学)
- 高原 輝彦 教授 (動物生理生態学)
- 広橋 教貴 教授 (発生生物学)

- 丸田 隆典 教授 (植物生理生化学)
- 室田佳恵子 教授 (食品代謝機能学)
- 山本 達之 教授 (生命分子分光学)
- 池田 泉 准教授 (生命有機化学)
- 石田 秀樹 准教授 (原生物学)
- 小川 貴央 准教授 (植物分子生理学)
- 戒能 智宏 准教授 (応用微生物学)
- 地阪 光生 准教授 (食品機能学)

- 西村 浩二 准教授 (植物分子細胞工学)
- 松尾 安浩 准教授 (微生物機能学)
- 舞木 昭彦 准教授 (理論生態学)
- 吉清 恵介 准教授 (分子認識工学)
- 秋廣 高志 助教 (植物細胞生物学)
- 須貝 杏子 助教 (島嶼生物学)
- ヌータラパティ・ヘムス 助教 (生命分子分光学・生命分析化学)
- 山口 陽子 助教 (動物生理学・比較内分泌学)

農林生産学科

- 一戸 俊義 教授 (動物生産学)
- 江角 智也 教授 (園芸生理機能学)
- 小林 伸雄 教授 (園芸育種学・花き園芸学)
- 松本 敏一 教授 (果樹園芸学・園芸利用学)
- 吉村 哲彦 教授 (森林利用学・森林情報学)
- 池浦 博美 准教授 (園芸植物利用学)
- 氏家 和広 准教授 (作物生理学)

- 門脇 正行 准教授 (作物学)
- 小林 和広 准教授 (作物生産学)
- 高橋絵里奈 准教授 (森林計画学)
- 田中 秀幸 准教授 (施設園芸学)
- 中務 明 准教授 (園芸分子育種学)
- 森 佳子 准教授 (農業経営学)
- 保永 展利 准教授 (地域経済学)

- 米 康充 准教授 (森林リモートセンシング学)
- 足立 文彦 助教 (作物生産学)
- 城 惣吉 助教 (土壌微生物学)
- 宋 相憲 助教 (動物生理学)
- 中間由紀子 助教 (農政学)
- ロザリア・ナタリア・セレキー 助教 (アグリバイオビジネス学)

環境共生科学科

- 石井 将幸 教授 (地域基盤工学)
- 上野 誠 教授 (植物病理学)
- 木原 淳一 教授 (植物病理学)
- 桑原 智之 教授 (水圏生態工学)
- 武田 育郎 教授 (水利環境工学)
- 宮永 龍一 教授 (昆虫生態学)
- 谷野 章 教授 (生物環境工学)
- 山口 啓子 教授 (水圏生態学)

- 泉 洋平 准教授 (害虫管理学)
- 上野 和広 准教授 (水循環設計工学)
- 久保満佐子 准教授 (森林生態学)
- 倉田 健悟 准教授 (汽水域生態学)
- 佐藤 邦明 准教授 (土壌園生生態学)
- 佐藤 裕和 准教授 (河川工学)
- 巢山 弘介 准教授 (土壌微生物学・農業環境科学)
- 橋本 哲 准教授 (森林水文学)

- 木原 康孝 講師 (農地環境工学)
- 佐藤 真理 助教 (地盤材料工学)
- 清水 加耶 助教 (昆虫生態学)
- 長門 豪 助教 (環境動態学)
- 林 昌平 助教 (微生物生態学)
- 深田耕太郎 助教 (土壌環境工学)
- 藤巻 玲路 助教 (森林生態学)
- 李 治 助教 (生物環境情報工学)

附属生物資源教育研究センター

[森林科学部門]

- 山下 多聞 准教授 (森林環境学)

[農業生産科学部門]

- 松本 真悟 教授 (土壌学・作物栄養学)

[海洋生物科学部門]

- 吉田 真明 准教授 (進化ゲノム生物学)
- 小野 廣記 助教 (進化発生学)

■学科別・日程別募集人員

| 学 科 名 | 募 集 人 員 | | | | | | | 合 計 | 帰 国 生 抜 |
|---------------|---------|---------|----------------------|-----------------|---------|------------|---|-----|---------|
| | 一 般 選 抜 | | 総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」 | | | | | | |
| | 前 期 日 程 | 後 期 日 程 | 一 般 型 | 特 定 型 | | | | | |
| | | | 地 域 志 向 (島根県・鳥取県) | 地 域 志 向 (全国) | 専 門 高 校 | グ ローバル 英 語 | | | |
| 生 命 科 学 科 | 37 | 5 | 22 | | | | | 70 | 若 干 名 |
| 農 林 生 産 学 科 | 31 | 5 | 15 | 9 | 3 | 5 | 3 | 60 | 若 干 名 |
| 環 境 共 生 科 学 科 | 33 | 9 | 16 | | | 7 | | 70 | 若 干 名 |
| 計 | 101 | 19 | 53 | 9 | 3 | 12 | 3 | 200 | 若 干 名 |

※1. いずれも、詳細は入学選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
 ※2. へるん入試特定型の地域志向(島根県・鳥取県)、地域志向(全国)及びグローバル英語は、学部全体での募集人員です。

■入試方法

| 区 分 | 一 般 選 抜 | | 総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」 | | | | | 帰 国 生 抜 |
|---------|----------------------------------|---------------------------|--|---|---|--|--|-----------------------------|
| | 前 期 日 程 | 後 期 日 程 | 一 般 型 | 特 定 型 | | | | |
| | | | | 地 域 志 向 (島根県・鳥取県) | 地 域 志 向 (全国) | 専 門 高 校 | グ ローバル 英 語 | |
| 試 験 内 容 | 大学入学 共通テスト + 個別 学力試験 | 大学入学 共通テスト + 面 接 | 【第1次選考】 出願書類 による選考 【第2次選考】 読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 出願書類 | 読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 地 域 志 向 レポートに基づく 「地域志向面接」 + 出願書類 | 読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 地 域 志 向 レポートに基づく 「地域志向面接」 + 出願書類 | 読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 英語資格・検定試験 + グローバル英語入試 志望理由書に基づく 「英語面接」 + 出願書類 | 読解・表現力試験 + 志望理由書を用いた「面接」 + 英語資格・検定試験 + グローバル英語入試 志望理由書に基づく 「英語面接」 + 出願書類 | 読 解 ・ 表 現 力 試 験 + 面 接 |

※1. 各学科が大学入学共通テストにおいて課す教科・科目、個別学力試験の科目、配点等については、入学選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
 ※2. へるん入試、一般型の第1次選考は、志願者数が募集人員の概ね3倍を超えた場合に実施することがあります。

■3年次編入学

| 学 科 名 | 募 集 人 員 | 入 試 方 法 |
|---------------|---------|-----------------|
| 生 命 科 学 科 | 合 計 15名 | 面 接 及 び 口 頭 試 問 |
| 農 林 生 産 学 科 | | |
| 環 境 共 生 科 学 科 | | |

※2024年6月8日(出)に実施しました。

入試情報に関する問い合わせ先

●入学選抜要項等の請求先
 島根大学入試課
TEL 0852-32-6073
 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 FAX0852-32-9726
 [E-mail] epd-nnyushi@office.shimane-u.ac.jp

学部・学科の
案内動画を
掲載しています!



[学部HP]

2024年8月7日(水)
**オープンキャンパス
実施!**

詳細はホームページをご覧ください!



●入試情報の提供
<https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>



島大 入試

■令和6年度入試 実施状況

| 学 部 | 区 分 | 募 集 人 員 | 志 願 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 入 学 者 | 入 学 者 内 訳 (%) | | | | | | |
|---------------|-----|---------|-------|-------|-------|-------|---------------|------|------|------|------|------|-------|
| | | | | | | | 男 | 女 | 県 内 | 県 外 | 現 役 | 既 卒 | そ の 他 |
| 生 物 資 源 科 学 部 | 前 | 106 | 450 | 424 | 117 | 131 | 58.3 | 41.7 | 14.1 | 85.9 | 88.3 | 11.2 | 0.5 |
| | 後 | 22 | 356 | 161 | 26 | | | | | | | | |
| | 総I | 72 | 106 | 105 | 75 | 75 | | | | | | | |
| | 帰国 | 若干名 | 1 | 1 | 1 | 0 | | | | | | | |
| 計 | | 200 | 913 | 691 | 219 | 206 | | | | | | | |

注. 「前」…前期日程, 「後」…後期日程, 「総I」…総合型選抜I「へるん入試」(センター試験を課さない), 「帰国」…帰国生選抜

■一般入試

| 学 部 | 学 科 | 区 分 | 募 集 人 員 | 志 願 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 入 学 者 |
|---------------|---------------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 生 物 資 源 科 学 部 | 生 命 科 学 科 | 前 | 40 | 185 (90) | 176 (85) | 44 (24) | 47 (25) |
| | | 後 | 6 | 159 (85) | 78 (39) | 6 (2) | |
| | 農 林 生 産 学 科 | 前 | 31 | 132 (43) | 125 (41) | 34 (16) | 38 (17) |
| | | 後 | 5 | 70 (27) | 25 (8) | 8 (5) | |
| | 環 境 共 生 科 学 科 | 前 | 35 | 133 (30) | 123 (27) | 39 (12) | 46 (17) |
| | | 後 | 11 | 127 (38) | 58 (18) | 12 (8) | |
| 計 | | 128 | 806 (313) | 585 (218) | 143 (67) | 131 (59) | |

注. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

■総合型選抜I「へるん入試」

| 学 部 | 学 科 | 区 分 | 募 集 人 員 | 志 願 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 入 学 者 |
|---------------|---------------|-----|------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 生 物 資 源 科 学 部 | 生 命 科 学 科 | 一般 | 19 | 29[6] (7[3]) | 28[6] (7[3]) | 18[1] (5[1]) | 18[1] (5[1]) |
| | | 専門 | 5 | 10 (4) | 10 (4) | 5 (2) | 5 (2) |
| | 農 林 生 産 学 科 | 一般 | 15 | 15[19] (4[8]) | 15[19] (4[8]) | 10[5] (3[2]) | 10[5] (3[2]) |
| | | 専門 | 5 | 10 (4) | 10 (4) | 5 (2) | 5 (2) |
| | 環 境 共 生 科 学 科 | 一般 | 14 | 24[12] (8[4]) | 24[12] (8[4]) | 15[1] (5[1]) | 15[1] (5[1]) |
| | | 専門 | 5 | 5 (0) | 5 (0) | 5 (0) | 5 (0) |
| | 全 学 科 | 山陰 | 8 | 12 (7) | 12 (7) | 9 (6) | 9 (6) |
| 全 学 科 | 全国 | 3 | 8 (3) | 8 (3) | 3 (1) | 3 (1) | |
| 全 学 科 | 英語 | 3 | 3 (1) | 3 (1) | 3 (1) | 3 (1) | |
| 計 | | 72 | 106[37] (34[15]) | 105[37] (34[15]) | 68[7] (23[4]) | 68[7] (23[4]) | |

注1. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

注2. []内はへるん入試特定型出願者のうち一般型併願者の数を示し、それぞれ外数である。

注3. 「一般」…一般型, 「専門」…特定型 専門高校入試, 「山陰」…特定型 地域志向入試(島根県・鳥取県), 「全国」…特定型 地域志向入試(全国), 「英語」…特定型 グローバル英語入試

■帰国生選抜

| 学 部 | 学 科 | 区 分 | 募 集 人 員 | 志 願 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 入 学 者 |
|---------------|---------------|-----|---------|--------|--------|--------|--------|
| 生 物 資 源 科 学 部 | 生 命 科 学 科 | — | 若干名 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| | 農 林 生 産 学 科 | — | 若干名 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| | 環 境 共 生 科 学 科 | — | 若干名 | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 0 (0) |
| 計 | | — | — | 1 (0) | 1 (0) | 1 (0) | 0 (0) |

注. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

就職への強力な支援体制

職種に応じた就職セミナーや面接指導、資格取得プログラムの実施

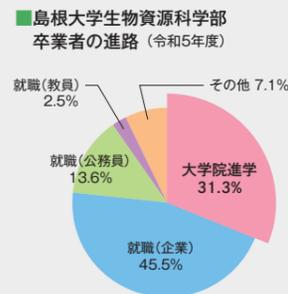


大学教育センター（キャリア担当）が企画するキャリア・就職ガイダンスや面接練習などの実践指導に加え、在学生の保護者で組織される後援会の支援を受けて、環境庁や企業、就職コンサルタントから講師を招いた学部、学科独自の就職セミナーを実施しています。このセミナーの講師には本学部の卒業生も多く、個々の学生の希望や適性に合った親身な指導を行っています。また、教員免許や学芸員など、各種の資格を得るための教育プログラムも充実しています。また、各学科に就職担当の教員を配置し、求人情報の提供や就職活動に対するアドバイスなどをいつでも受けられるようきめ細やかな指導を行っています。

- 【生命科学科（生命工学科含む）】
- 【企業】 富士フィルムビジネスソリューション株式会社、株式会社新日本科学、貴和化学薬品株式会社、TOA（旧 日本コルマー）株式会社、東海漬物株式会社、HORACグランフロント大阪クリニック、島根電工株式会社、マリンフーズ株式会社、ファロスファーム株式会社、株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン、PwCコンサルティング合同会社、株式会社フジヤマ、株式会社成学社、大分信用金庫、など
- 【公務員】 農林水産省、岡山県警察、姫路市消防局、三島市職員
- 【教員】 広島県立学校
- 【進学先】 島根大学大学院、北海道大学大学院、大阪大学大学院、九州大学大学院、大阪公立大学大学院、広島大学大学院、熊本大学大学院、三重大学大学院
-
- 【農林生産学科】
- 【企業】 カネコ種苗株式会社、ヤンマーアグリ株式会社、全国農業協同組合連合会（JA全農）、全国農業協同組合連合会岡山県本部（JA全農おかやま）、岡山市農業協同組合（JA岡山）、JAフーズおおいた、株式会社村上農園、タローファーム株式会社、合同会社空浮、株式会社ふくや、株式会社なかつか、株式会社出雲村田製作所、株式会社あわしま堂、マックスバリュ西日本株式会社、株式会社天満屋、株式会社マミーマート、信濃毎日新聞株式会社、株式会社サーベイリサーチセンター、NECソリューションイノベータ株式会社、山陰ケーブルビジョン株式会社、島根トヨペット株式会社、福山通運株式会社、など
- 【公務員】 島根県職員、鳥取県職員、和歌山県職員、愛媛県職員、福岡県職員、大分県職員、出雲市職員、鳥取市職員、八代市職員、航空自衛隊
- 【教員】 島根県立学校
- 【進学先】 島根大学大学院、東京農工大学大学院、岡山大学大学院
-
- 【環境共生科学科（地域環境科学科含む）】
- 【企業】 株式会社環境アセスメントセンター、中電環境テクノス株式会社、リコージャパン株式会社、中外テクノス株式会社、セントラルコンサルタント株式会社、株式会社ワーパス、三浦工業株式会社、前田道路株式会社、株式会社プロテリアル安来製作所、株式会社湯山製作所、株式会社大陸設計、有限会社マルナガファーム、有限会社グリーンファーム、株式会社なかやま牧場、トヨタネ株式会社、リファインホールディングス株式会社、大分瓦斯株式会社、株式会社万代、株式会社吉野家、イオンベットの株式会社、など
- 【公務員】 国土交通省、農林水産省、島根県職員、三重県職員、和歌山県職員、福岡県職員、広島市職員、福山市職員
- 【教員】 島根県立学校、大阪府立学校、兵庫県立学校
- 【進学先】 島根大学大学院、京都大学大学院、九州大学大学院、神戸大学大学院、信州大学大学院、西北農林科技大学資源環境学院、別府短期大学

大学院進学を応援

生物資源科学部で学んだ後は、より高度な研究に取り組み、高い技術と専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院で学ぶことにより、さらに学問の深みを知り、学会発表や論文作成を通して、自身の研究成果を発信する機会が得られ、自分の能力を大きく磨くことができます。希望者は、大学院の授業を学部生の時に聴講することができ、大学院で研究に集中できる時間が作れ、早めの就職活動が可能になります。大学院生は学生指導をするティーチングアシスタントや研究補助をするリサーチアシスタントの業務をすることで収入を得ることができます。大学院を修了した後はより専門的な職種に就くことができます。



- 【天 大学院修了後の主な就職先（令和5年度）】
- 【生資関連コース（環境共生科学コース、生命科学コース、農林生産学コース）】
- 【企業】 ▶研究職／一般財団法人残留農薬研究所、株式会社伊藤園、大塚食品株式会社、株式会社不二家、タマノイ酢株式会社、いなば食品株式会社、六甲バター株式会社、薩摩酒造株式会社、日本コーンスターチ株式会社、株式会社クラレ、株式会社林原、湧永製菓株式会社、丸善製菓株式会社、日本臓器製菓株式会社、株式会社新日本科学、株式会社メニコン、カネコ種苗株式会社、トキタ種苗株式会社、エムシー・ファーマティコム株式会社、オルガノ株式会社、株式会社日本総合科学、株式会社フソウ、タイガー魔法瓶株式会社、パナソニック内装建材株式会社、など
- ▶技術職／武田薬品工業株式会社、扶桑薬品工業株式会社、株式会社三洋化学研究所、皇漢堂製菓株式会社、日研フード株式会社、株式会社創味食品、わらべや日洋ホールディングス株式会社、島根県農業協同組合、兵庫西農業協同組合、株式会社日本天然物研究所、ヤスハラケミカル株式会社、株式会社日比谷アメニス、株式会社ジェイ・オー・ファーマ、島建コンサルタント株式会社、株式会社三祐コンサルタンツ、三機工業株式会社、公益財団法人森林ネットおおいた、など
- ▶営業職・その他／ヤンマーアグリジャパン株式会社、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社、坂元醸造株式会社、ウシオ電機株式会社、株式会社TOHO（トーホー）、大信産業株式会社、堺化学工業株式会社、株式会社山陰中央新報社、公益財団法人島根県環境保健公社、など
- 【公務員】 ▶技術職／島根県職員、和歌山県職員、大阪府職員、京都府職員、広島県職員、国土交通省中部地方整備局 ▶その他／島根県職員、東京都職員I類B
- 【教員】 兵庫県立学校、島根県立学校
- 【進学先】 島根大学大学院自然科学研究科（博士後期課程）、鳥取大学大学院連合農学研究所（博士課程）、岩手大学大学院連合農学研究所（博士課程）、ユタ大学（博士後期課程）：アメリカ

水の都・松江にある島根大学松江キャンパスはJR松江駅からバスで約20分



大学構内図（松江キャンパス）

- 1 生物資源科学部1号館
- 2 生物資源科学部2号館
- 3 生物資源科学部3号館
- 4 教養講義室棟
- 5 附属図書館
- 6 学生センター
- 7 学生支援センター
- 8 保健管理センター
- 9 学生食堂
- 10 学生会館（生協）
- 11 総合情報処理センター
- 12 法学部棟
- 13 教育学部棟
- 14 人間科学部棟
- 15 総合理工学部1号館
- 16 総合理工学部2号館
- 17 総合理工学部3号館
- 18 次世代たたら協創センター
- 19 本部棟
- 20 学生市民交流ハウス



周辺おすすめスポット



- 松江城**
松江のシンボルで、屋根が千鳥が羽根を上げたように見えることから、「千鳥城」とも呼ばれます。平成27年7月、国宝に指定されました。
- 八重垣神社**
八坂大蛇を退治した葦蓋鳴尊と稲田姫が新居を構えた場所であることから、「縁結び」の神社として知られています。「鏡の池」では縁の運速を占うコイン占いができます。
- 島根県立美術館**
宍道湖畔に建つ「水との調和」をテーマにした美術館です。水をテーマにした国内外の絵画を収集展示しているほか、島根ゆかりの作家の作品などを展示しています。



アクセス

※時間はあくまで目安です。

飛行機

- ▶ 東京(羽田)―出雲……………約1時間25分
 - ▶ 大阪(伊丹)―出雲……………約 50分
 - ▶ 名古屋(小牧)―出雲……………約1時間
 - ▶ 名古屋(中部)―出雲……………約1時間 5分
 - ▶ 静岡―出雲……………約1時間15分
 - ▶ 福岡―出雲……………約1時間 5分
- ※出雲空港から連絡バス松江行(約35分) JR松江駅下車
- ▶ 東京(羽田)―米子……………約1時間20分
- ※米子空港から連絡バス松江行(約45分) JR松江駅下車

JR

- ▶ 東京―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江……………約6時間10分
- ▶ 名古屋―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江……………約4時間30分
- ▶ 大阪―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江……………約3時間50分
- ▶ 福岡―(新幹線)―岡山―(特急やくも)―松江……………約4時間30分
- ▶ 岡山―(特急やくも)―松江……………約2時間35分

高速バス

- ▶ 東京―松江……………約10時間25分
- ▶ 大阪―松江……………約 4時間40分
- ▶ 岡山―松江……………約 3時間10分
- ▶ 広島―松江……………約 3時間20分
- ▶ 福岡―松江……………約 8時間

JR松江駅から島根大学まで

- 〈市営バス〉▶ 北循環線内回り 島根大学前下車……………約15分
- ▶ 島根大学・川津行 島根大学前下車……………約20分
- ※他に「平成ニュータウン行」「あじさい団地行」「東高校行」などがあります。
- 〈一畑バス〉▶ 美保関ターミナル行 島根大学前下車……………約20分
- ▶ マリンプラザしまね行 島根大学前下車……………約20分

島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
 TEL 0852-32-6493 FAX 0852-32-6125
<https://www.life.shimane-u.ac.jp/>

